ウェルネスサポートチーム（産業保健スタッフ）の取組と振り返り(2026)

2023年より社員を心身両面からサポートし生き生きと働けるようにウェルネスサポートチーム（産業保健スタッフ）を設置しました。
チームとしての体制整備や窓口を充実したことで多くの社員との接点が確保ができたことで、欠勤率や休職期間減少がが見られました。

	主な取組（実績）	現状・振り返り	解決策・打ち手
全体	・コラボヘルスによる社員への健康支援 ・健康支援管理ツールPepUpの導入：100%登録完了	【効果】 ・事業主と健康保険組合、CCIG_Unityとの三位一体となった取組（特定保健指導、運動習慣の促進） 【課題】 ・プレゼンティーズムの更なる改善：81.3% **→健康データを活かした社員の行動変容**	【打ち手】 ・PepUpforWork（事業主向け）の導入 【課題：データヘルスの促進】 ・労働時間や健康課題を用いて対象者に合わせた効率的な情報管理
こころ ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ嘱託医 産業カウンセラー 精神保健福祉士 メンタルヘルストレーナー	【社内向】 ・社員との接点（カウンセリング・医療連携・EAP活動など）633件 ・オペセン職場環境改善 ・DE&I動画作成、ラインケア浸透 ・ストレスチェック ・デジタルメンタルヘルスアプリの試行 【社外向】 ・学会・セミナーへの登壇（災害対応政策提言、講演活動） ・障がい者採用における県内大学連携	【効果】 ・休職期間の減少(8.1月/人(▲0.8月)) 【課題】 **・社員の平均年齢上昇、高齢化によるワーキングケアラーの増加** →仕事と介護の両立支援 ・長期休職割合（こころ）男女比4:6 **→多様化する休職要因**	【パフォーマンス向上】 ・介護相談窓口活用と認知向上 ・セルフケア・ラインケアの取組 ・産業医等の有効活用と未然防止活動 ・早期発見・早期対応による医療リファー支援と指導 **【課題：介護との両立支援】** ・介護セミナーの実施、制度周知 ・介護経験者との座談会
からだ 産業医 保健師 健康保険組合	【社内向】 ・社員との接点（保健指導、保健師　フォロー、面談など）1,394件 ・オペレーションセンター出張相談41件 ・社内向健康測定会、セミナー：3回 【社外向】 ・健康保険組合活動状況で厚労省総合評価単独1位 ・健康経営優良法人(ホワイト500)　認定（上位201～250位）	【効果】 ・ヘルスリテラシー向上：84.2%（前年比+0.3%）エンゲージメント向上：-46.8%(前年比+0.9) **・休職期間の減少(4.5月/人(▲1.2月))** 【課題】 ・長期休職割合（からだ）男女比2:8 **→女性の健康課題** ・生活習慣の改善（喫煙率・運動・睡眠に課題)、2021年度実績と比較し悪化（▲3ポイント）→生活習慣改善と健康への意識向上	【パフォーマンス向上】 社員との接点できめ細かいアプローチ継続 【生活習慣改善・意識向上】 ・社員向けセミナーなどポピュレーションアプローチの実施 ・食事習慣改善へのアプローチ（特定保健指導、ウェルネスチャレンジ月間） ・健康支援システム（PepUp）導入による健康リテラシー向上と行動啓発 **【課題：女性の健康課題】** ・健康情報の発信 ・仕事とプライベートの両立支援のため、「キャリサポチーム」活用も促進する